

「20年後の世界に思いを馳せる」

最近電車の中でスマートフォンを使って夢中になっている若い人（男女を問わず）が増えてきた。多い時には座席の周囲の人のほとんどの人が使っているのを見かけることがある。歩きながら、自転車に乗りながら、さらに驚いたことには、子供を乗せたままスマートフォンを使っているのを見かけたこともある。

昨日のNHKの番組でこの使用法を調査したところ、①ライン、②ゲーム③YouTubeの順であった。使用時間は年齢により差はあるが、小学生で一日2時間から、高校生では7時間まで使用していた。その分、友達同士や、家族での話をする時間が減っているはずである。

インターネットや携帯のない時代、電車の中で乗客は皆、何をしていたのであろうか。話をしたり、本を読む人をたまに見かけるぐらいであったように思う。

20年後には世の中はどうなっているであろうか、想像すらできない。

ロボット技術が発達し、人と共生するようになる。IPS細胞で神経難病や心臓病等不治の病気が治療できるようになるであろう。人工受精で人口を増やす、これらは危険と隣り合わせであることも考えなければならない。その昔、普通にあった、人とのつながり、家族のつながりが薄れることを憂う。

平成27年3月

尼崎中央病院 理事長 吉田静雄